

として一般会計からの負担金でございます。

支出の1款1項建設改良費につきましては223万7,000円を増額し、内訳としまして、1目事務費に職員人件費を63万7,000円を増額し、2目配水施設整備費に消火栓新設工事請負費として160万円を増額いたすものでございます。

以上よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度長井市各会計補正予算案に関する総括質疑

○安部 隆委員長 概要の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

江口忠博委員の総括質疑

○安部 隆委員長 順位1番、議席番号3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 おはようございます。

大分秋らしくなってまいりましたけれども、少し雨が続いておりまして、倒れた稲などの様子も見ますと少し心配になってまいりましたが、この土曜日と日曜日、昨年に続いて2回目でありまして、西根の古代の丘において「ぼくらの文楽」が開催をされました。昨年のたしか12月だったと思いますが、私は、市長のほうに「ぼくらの文楽」についての支援をお願いを申し上げたところ、市長からは限定的な応援になるかもしれないが、若者たちがやっているイベントであるから、ぜひ応援していきたいものだというふうな答弁があったと思います。

ことしの場合は、西根の公民館も含めて地域の方々の全面的なご支援、絶大なご支援をいただいで、スムーズに開催されたのかなと思っております。西根の地区の方々には、本当に敬意と感謝を申し上げたいと思いますし、またこの長井市においても出張市役所なるものも開設していただきました。2日間、私は市民として現場を見させていただいて、楽しませてもらったのでありますが、職員の方々もボランティアな気持ちで参加をしてくださってる方もたくさんいらっしゃると思いますし、ありがたい限りだなと思っております。市長におかれても、そして職員の方々におかれても、2日間、本当にお疲れさまでしたとまず申し上げたいと思います。

初日の私は、シャトルバスを使ってまちなかと会場を行ったり来たりしていたんですが、帰りのシャトルバスを現地で待っていたときに、若いご夫婦、小さな子供さんを連れられたご夫婦がいらっしゃいまして、奥さんがこんなことをおっしゃってました。旦那さんのほうに向かって、「ここはとってもいいところよね」ということをおっしゃってた。私は、その言葉を聞いて、とってもうれしくなりました、少し近づいてって自己紹介もしてからですけども、どちらからですかとお声をおかけしました。そして大阪からですというお答えでした。昨年来たかったんだけど、来られなかったので、ことしやってきましたと。とってもいいところですねというような話をして、私も古代の丘の遺跡群ですね、竪穴式住居などの説明を申し上げたんですが、じゃああしたも楽しめそうですということで、その方々は、お泊まりはその晩はとらや旅館さんのほうに宿をとっておられたようではありますが、大阪からわざわざ見えるというのは、なかなか私たちの感覚では捉えられない、あやめ公園であるとか、あやめまつりであるとか黒獅子まつりに来てもらうのは当然だみたいな思いもありますが、音楽イベント、文

学イベントで若者たちが仕掛けている、ああいったところに大阪からやってくるというのは、歳をとりますと驚きだったんです。

そうやって長井市のよさというのがネット社会の中で、少しずつ少しずつ伝わり始めているなというようなことも実感したわけですけども、きょうの質問は、こういった長井市のよさとかいうことを市民の方々と確認をして、そしてこれからどんなふうに長井市をつくり上げていくかということについての都市再生整備計画であるとか観光振興計画、そんなことを中心にしながら、通告しております事柄に従って質問させていただきます。少し項目が多いものですから、市長はじめ当局におかれては、なるべく簡潔な答弁をお願いしたいと思います。

それでは、まず市長のほうにお伺いしますが、この第5次総合計画ですね、再来年度からいよいよスタートするわけで、今準備中ではありますが、どう考えても、この議論を今している中で、この3つの都市再生整備計画と観光振興計画、そして中心市街地活性化基本計画、この3つが第5次の策定に当たっての議論を阻害したりはしないかということが若干心配でもあります。

ここ2年間、未来塾という若手職員と、そして市民の方々約100名ぐらい集まった未来塾、これは第5次総合計画の策定をにらんで人材育成をするんだという市長のお考えによってつくられた塾ではありますが、この中の北川教授などは、これからの地方はやはりグローバリズムを目指すのではなくて、本当にローカリズム、循環型社会を目指していくべきなのだというふうなお考えも表明もされておられますし、是川先生のゼミでは、全国各地で行われている中心市街地活性化基本計画の実施による不幸な点、はっきり言いますと、失敗している点なども、いろいろ塾生などにもご教授いただいているんですが、そういったことも含めて、私たち塾生は第5次の策定をにらんで、いろんな議論をして

きました。

この25日には、その発表会なるものもあるわけですけども、このまちづくりにかかわる思想のようにとってもいいかもしれません、考え方ですけども、これをこれから先ほど申し上げた3つの計画が先行することによって、その話し合い、議論を阻害することがないかどうか若干懸念もありますので、市長のほうからお考えをお聞きしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、「ぼくらの文楽」について一言だけ触れさせていただきますと、若い人たちの発想とか行動力はすばらしいなど。結局全国各地からいらっしゃるといのは、ネットワークとか、あるいは広報媒介としてのフェイスブックであったりインターネット、ホームページ等々を含めて、そういったものを生かすやり方というものも改めて感心したところでもあります。主催の一人である船山さんなんか、ぜひ長井市のまちづくりにいろいろな我々の力も使ってくださいと言っていただいておりますので、大変楽しみだなどと思っておるところでございます。

ご質問のお答えでございますけれども、この第5次総合計画の振興審議会の会長をなさっていただいているのが北川先生でございます。北川先生のローカリズムというのは全く私も同感でございます。その要諦とするものは、いわゆる循環という考え方で、そしてその循環の中にもさまざまな循環があるわけですが、経済的な循環はもちろんでございますが、人材とか、あるいは地域に根差した、さまざまな市民の皆様の行動を推進するということだというふうに思っております。

そんな中で、今、第5次総合計画に先立って第4次総合計画の総括をしてるわけでございます。まず第一に、この3つの計画、都市再生整備計画、この主な中身としては、生活環境整備

ということで、さまざまな市民の皆様から要望のあった消雪であったり道路改良であったり水路であったり、そういったものがあるわけですが、それ以外、とにかく都市を再生するためには、人が集まるような、そういった拠点的な施設をつくっていかうというのがもう一つの柱なわけですね。

例えば、かわと道の駅については、実はこれは第4次総合計画には触れられてないんですが、前にもありましたように、長井ダム環境整備促進計画といいますか、そういった中でも要望があったことでありますし、またこれに先立つ経済再生戦略会議の中でも、市民の皆様から、ぜひ道の駅をというようなご提言をいただいておりますので、そういった意味では、決して全く違った異質のものではないということがまず第1点。

それから、観光振興計画につきましても、そもそも第4次総合計画の中で観光振興計画をつくるということが明記されておりました。しかし、それがまだされてないということで、第4次総合計画の仕上げということで今つくってるものでございます。

最後に、中心市街地の活性化基本計画につきましても、これも同様に、第4次総合計画に触れられてる部分でございます。本町の街路事業をはじめ中心市街地の活性化を図るということは、第4次総合計画で触れられてることでございますので、そういった意味では、第4次の総合計画を総括する中で、やはり引き継ぐべき施策あるいは見直すもの、新たな施策、そういったものが含まれるものだろうと思っております。

そういった意味では、市民未来塾の皆様から、いろいろ今学んでいただいているわけですが、当然これからのまちづくりの実践者となっていくということが大きな狙いではございますが、その中で皆様からの提言をぜひ第5次総合計画に生かすべく、いろいろ私どもも工夫し

ていかなきゃいけないと、そのように思っておりますのでございます。

なお、振興審議会の委員の中に未来塾の皆様からも数名入っていただいておりますし、市民公募も入っておりますので、そういった意味では担保されてるというふうに思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

第4次と第5次の境ですね、このところは切れ目があってはいけないわけですので、切れ目ないように行政の施策を展開していくという点では、第4次にも描かれたようなことを今最終的に仕上げをしながら第5次につなぐという、そのちょうど境目というか、間なんだろうなというふうに理解をするわけですが。この間、あやめR e P oができました。実はこれは非常に市民の方々からも反響が大きいのです。大体開きますと、中心市街地活性化のイメージってありますが、この字が小さいものですから、イメージとは市民の方々は見られないで、大体これでいくだろうというふうなことが伝わっているわけですが。

この中で、市長が1ページ目でしたか、表紙の一番下ですね。これから意見交換会を開催しますということを表明されております。各地区公民館のほうで順次、今月の28日を皮切りにして行われるわけですが、大体今までの意見交換会あるいは座談会らしきものは、私も参加して、あるいは巷間伝え聞くところによると、大体行政側から、当局側からの説明がほとんどを占めて、それへの理解を願うというような意見交換会の様式が多いという印象がどうしてもあるんでありますが、これからの意見交換会、市長はどのようにこれを使われるか。

いろんな市民の方々のご意見もあろうと思っております。こういった計画について賛意を示してくれる市民の方々もいらっしゃるし、そしてまたいろんな苦言も含めた提案もしてくださる市民

の方々もいらっしゃるだろうと私は期待を込めているんでありますが、そういったときにも、ぜひ市民の方々の意見にも傾聴しながら、そしてそれを施策にこれから反映できるものはしていこうという当局側の心構えがないと、意見交換会も形式的なものに終わってしまうのかなという若干の心配もございますので、今回の意見交換会に望まれるお気持ちも少し表明していただければと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

第5次総合計画については、市民アンケートというものも1,800名の方に実施させていただいて、回収率は50%弱でございますけれども、市民の皆様幅広い意見あるいは基本的な方向性をどういうふうに望んでおられるかということは非常に重要なことで、第5次総合計画に向けての市民の皆様からの意見をいただくということは、企画調整課を中心に山大の人文学部の先生方からも協力いただいております。

今回、私がまずは6地区公民館単位で行わせていただいて、その後、大字単位で約30カ所ぐらい来年の3月ぐらいまででさせていただきたいと思っておりますが、この内容については、今、委員からありましたように、長井市の再生をどうするんだということをまず市民の皆様に関わりたい。そして、その際には、当然長井市の状況、これは財政的なものも若干触れさせていただきますが、おかげさまで行革も一段落しましたので、皆様への感謝も込めて、やっぱりきちとした長井市の状況を私ができるだけ直接お話ししなきゃいけないというふうに思っています。

あともう一つは、今、国内あるいは世界的にも、いろんな混乱があるわけです。経済であったり政治であったり、社会それぞれの部分で混乱があるわけですが、そういった中で、私たちの長井市の立ち位置はどうなんだと。そし

て、これからどういうふうにして私たちの未来をつくるのかというところを、説明はどうしても1時間ぐらいは何だかんだであるかもしれませんが、しかし、できれば1時間ぐらいは皆様から自由に意見をいただきたいというふうに思っています。ただし、要望会ではなく、お願いしたい。それはまた別途いろいろな地区長さんや、いろんな形で頂戴する機会を設けます。むしろこれから私は長井市をこうすべきだと、あるいは俺はこう思うんだということを言っているのだから意見交換をしたい。

特に今回このあやめR e P oについては、中心市街地を中心の中身をお示ししています。これは、なぜお示ししなきゃいけないかというのは、今回の予算でも上程させていただいておりますが、いわゆる都市再生整備計画の中のかわと道の駅について私からの提案に対して、当局側の提案に対して、議会のなかなかご理解をいただけてないと。その部分をやっぱり説明する必要があります、責任があるだろうと思っておりますので、これについてもお話を当然させていただきます。

それと同時に、みずからの地域をやっぱり自分たちの責任でつくるんだという協働のまちづくりのお願いをしていきたいと、そんなふうに思っております。一方的説明ではなくて、やはりいろいろ意見交換しながら、どういうふうに今後、長井市を私たちの子孫に引き継いでいくかという話をさせていただきたいと思っております。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。最後に市長から協働のまちづくりという言葉も出ましたけれども、協働のまちづくりという言葉は全国今どこでも使われております。実は協働のまちづくり、協働という言葉がまだ世に出る前に、レインボープランでは「ともに」という言葉でそれを言いあらわしていたわけです。

それで、例えば今、市長がおっしゃったように、要望型ではなくて意見交換会をしたいのだということでありました。それはそれで理解をしますが。私たち市民がいろんな要望もしますし、意見も出します。けれども、そこには、なかなか責任を伴った発言というのは少ないような気がするわけです。各審議委員の方々、いろんな行政から諮問を受けた委員の方々におかれても、責任を持って自分が参画していくんだという思いのもとで発言をされている方々はどれだけいらっしゃるかというと、いらっしゃるでしょうけれども、全員とは言えないだろうなと思っております。

これからの協働のまちづくりは、一市民の方であっても、発言された、あるいは要望をされた、意見を述べられた重みというものもぜひ自覚していただけるようなシステムも必要なんだろうなと。昭和63年にまちづくりデザイン会議という会議がそもそもきっかけとなって、今のレインボープランがあるということですが、その当時の自由な発言の中にあっても、委員の方々は自分が発言した重みを痛感されて、そして行動に移された、行政への施策へ参画してこられたということがあって、今のレインボープランがあるんだということを考えますと、これからもぜひまちづくりの中には、市民の方々の意見を取り入れると同時に、市民の方々が責任を持って私たちも参画をしていきたいんだと思ってもらえるような会議なり意見交換会なりにしていってほしいということを強く求めたいと思います。

限られた時間ですので進みますが、次に、かわと道の駅、そして河川緑地公園で想定されます課題について、少しずつまた伺っていききたいと思います。

まず一番最初に、学校施設と幼児保育施設への配慮と危機管理の考え方はということで教育長にお尋ねしますが、冒頭、望ましい教育施設

の周辺環境というのはどういうものであるかということをもとに教育長からご所見を伺いたいと思いますが。

○安部 隆委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 望ましい教育環境の施設というのは、私の考えるところでは、やっぱり自然豊かな長井市のよさというところでは、そういう環境がいいのでないかなというふうには思います。安全な場所、そういうふうには思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 この道の駅については、何と言ったらいいでしょうね、かわと道の駅という、仮称なんでしょうね。ちょっと長いので、あえて道の駅というふうにはきょうは言わせてもらいますが、いろいろ場所を限定的な場所にはあえて今までしないで議論をしてきたような気もしますが、実際のところ、このあやめ R e P o でもそうですが、あそこに決めた上で議論を進めたほうがよりわかりやすい議論になるかなと思って、きょうは今の長井小学校の道路を挟んだ東側を道の駅に設定させていただいて、話を進めさせてもらいたいと思うんでありますが。

まず、人がたくさん来るでありましょう、バスも車も入ってくるでありましょうが、大型バスが入ってくる時には、大体ホイッスルでピッピッピッという誘導音が鳴り響いているというのが何かイメージがあるんですけども、そういう場合、保育施設あるいは道を挟んでおりますが、長井小学校という教育施設がある中で、何か対策を講じなきゃいかんだろうと思うんですが、その辺、教育長としてはどんなふうなお考えをお持ちか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 お答えいたします。

具体的に長井小学校が国道を挟んで隣接するというふうになった場合、危機管理で想定され

ることとしては、まず通学の安全という面が1つ考えられるかと思いますが、この点については、特に下校時のほうが問題になるかと思いますが。その際に、現在、道路を横断する必要のある子供というのは、館町方面の子供さんがいるわけでありまして、現在の通学は、駅前通りを横断して、それから東側に横断するという横断の仕方をしているようでありまして。セブーンイレブンのほうに抜けて、その歩道を下校すると。あと緑町方面の舟場とか、そういうお子さんについては現在、こちらに出てこないで、グラウンドを渡って北口のほうから下校して、そして太丸モーターズがありますが、あそこの信号を渡って下校しているという様子であります。ということで、特に下校時に道の駅とは少しかわりなく下校できるのかなというふうに思っております。

それから、騒音のご指摘がございました。現在、東側、ちょうど第2校舎、第3校舎の東側の教室が問題になるわけでありまして、現在、そこは普通教室としては使用していないということで、設置後、すごい混雑するということときには若干の影響はあるのではないかなと思っておりますけれども、大きな影響はないのではないかなというふうに学校側も考えているようでありました。

それから、一番問題なのは不審者の問題でありますね。この点については、道の駅があるなしにかかわらず、現在も困いのない状況でありますので、どこからでも校地内には入れる状況だと。これは長井小学校に限らず、どの小学校も同じなわけでありまして、日中は現在も校舎1階については施錠をして、直接入れないようにしているという対策をとっております。また、夜間については、飯豊中とか長井工業高校で不審者の侵入事件がありましたので、前回の議会の折にも話しましたが、防犯ライトでありますとか防犯カメラ、そういうものの設置について今検討しているところでございます。

また、道の駅が24時間稼働ということであれば、警察署等にもお願いしながら、立ち寄り箇所とかパトロールの場所にも加えていただいて、安全に配慮していきたいというふうに考えております。

また、幼稚園施設のほうとのかかわりでありまして、全く隣というふうに、隣接するわけでありまして。その面で、交通の面では幼稚園バスでの送り迎えでありますので、その点は心配ないということでありました。あと防犯上の面については、施設ができることで幼稚園としては不審者侵入が、池田小のような、あいつた事件がもしあったとしたときは、幼稚園の職員だけでは守り切れないと。むしろ近隣にそういった職員が入ることで、安全面では協力してもらえんんじゃないかという、そんなお話もございました。

あと騒音については、お互いさまということでのお話でありましたけれども、施設の配置状況とか、そういうことで、できるだけ影響の少ない設計のあり方というのが必要かなというふうに思っております。河川公園が近隣にできるということで、できれば体験活動、自然体験あるいは体験農園みたいなことで活用させていただきたいという、そういうふうな要望などもあったようでございます。以上でございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。学校教育施設あるいは保育施設等の関係ですね、これは本当に慎重に、実際の実施設設計等も始まる折には、これは本当に安全第一、環境優先で進めなければいけないわけですが、そもそも今の国道はあそこにはなかったわけですね。長井小学校の隣に国道を通したという、何年前か私はちょっと記憶にはないのですが、私が小学校のころだと思います。その時点から学校教育に対する配慮、教育関係に対する配慮も欠けていたんだらうかと、今思えば考えられるわけで

すが、次から次へとインフラ整備が進められていく中で、どうしても子供たちを豊かな教育環境で、冒頭、教育長が自然環境が整っていて静かな空間が望ましいだろうということをおっしゃいましたけれども、そういったものがどんどん失われてきた社会なわけですので、そのところは、これからの開発の中では、どこかできちっとブレーキというか、子供たちを守っていくんだという姿勢をぜひ示さなければいけないなど、そんな思いがあります。

次、まち・住まい整備課長のほうにお聞きしますが、今回の河川緑地公園については都市公園にしていきたいんだというお考えをお持ちだというふうにお聞きをしましたけれども、長井市内には都市公園と言われるものは何カ所かございます。これは交付税の措置の対象になっておりますので、今回4ヘクタールほどの都市公園として上がっていったときに、実際交付税措置はどのぐらいの額になるのか、参考までに教えていただきたいと思えます。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

都市公園に係る交付税算入額でございますが、都市公園の面積に応じた額となっております。今現在の都市公園の面積は全体で20万3,800平米でございます。算入単価は1,000平米当たり3万7,700円でございますので、現在の交付税算入額は765万3,000円となっております。このたび計画しております最上川河川緑地公園につきましては、都市公園と位置づけしておりますので、整備後の面積約4万4,400平米が増加することによりまして、交付税算入額の増加額は169万6,000円となっております。以上でございます。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

確認ですが、765万3,000円の中に、この169万6,000円が入るといことですか、別ということですか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 765万3,000円から増加額ということでありますので、プラスになります。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

今までこの都市公園に対して交付税が入ってきたわけですが、これの使途は、どのような形で使われていたのか。公園の維持費ということで限定的に使われていたのかもあわせてちょっとお聞きしたいんですが。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 この交付税につきましては特定財源でございませぬので、一般財源として使われております。その中で、都市公園の維持管理費についても充当されてる部分がございますが、今後整備いたします最上川河川緑地公園につきましても、ある程度維持管理費に充当することは可能だというふうに思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ある程度そちらのほうに使途するのは可能だということのお答えでありましたが、これまでの議会の中での懸念というか、問題視されていたのは、これからの維持費用ですね、そのところがやっぱりどうなっているのかというようなことも大きなテーマとなつて、課題となつて私たちも捉えておりました。一般のほうにこれを全て繰り入れて、そこからまたどんなような使い道になるかわからないというようなことには余りせずに、なるべく都市公園に対しての交付税措置で得た財源というのは、公園の維持管理費用になるべく充当して

もらいたいものだなと思うんですね。これからの維持費用について足りないところはどうかということ、それからのことでもいいんでしょうけども、最初から維持費用をゼロから積み上げて、どこから工面しようかというようなことの議論ですと、なかなか難しい局面も出てくるんだろうと思います。なものですから、可能であれば、この施設維持費用については、最低交付税措置で得られたものを充当してもらえばと思うし、これは要望です。

市長に伺いますが、前々から市長は、今回の都市再生整備計画あるいは中心市街地活性化基本計画もそうでありましょうが、とにかく雇用の場をつくりたいんだと、雇用に絶対つなげないといけないんだという、観光客の数字も引き合いに出されながらおっしゃっておられましたけども、これからの道の駅の附帯設備のあり方によっても、さまざま数字は変わってくるんでありましょうけども、雇用の創出につなげるんだという脈絡などをお持ちなんでしょうけども、ぜひご披露していただければと思うんです。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

3月議会で事業による経済波及効果を明らかにしなきゃいけないんじゃないかというような議会からもご指摘をいただいたわけでございます。具体的にどのぐらいの来客数を見込み、またどのぐらいの売り上げを見込んでるんだというようなご質問等々もいただきました。今回の予算で計上させていただいてる内容を見ていただくとわかりますように、実施設計、実施測量なんですね。ですから、まだ全体の今回の都市再生整備計画の目的なり、あるいは個別の施設をこういうふうにつくることによって集客をして、そしてその経済波及効果等々あるいは雇用の増にもつながるような事業で長井市のまちなかを再生したいという事業で、計画で、これは国の認定をいただいたわけですね。しかし、そ

の細部についてはどうなんだと。もちろん議会の皆さんがおっしゃるとおりでございます。しかし、それをつくるために、まずは青写真すら今の段階ではないわけですから、それをつくりたいということで予算を計上させていただいてるわけですね。

3月の議会でそういったことを求められましたので、1億9,550万円ぐらいですね、たしか削除されたわけですが。そのために、今度は6月定例会で、それでは経済波及効果なり、あるいは今後の雇用増あるいは観光客がどのぐらい見込めるのかと、そういったところの調査をしたいということで、補正をやったわけですね、1,100万円ほどでございました。しかし、残念ながらこれもご理解いただけなくて、これも削除されてしまいました。

ですから、私がこれから申し上げることというのは、全くの私の根拠のない形になるわけですけども、それでもあえて申し上げてまいりたいと思いますが、例えば菜なポートあるいは地場産業振興センター、タスの中の物産館の23年度の、昨年度の売り上げでございますけれども、菜なポートの売り上げは約1億700万円、1,000万円弱ですね。また、あすこの物産館の店舗では3,500万円しか残念ながらございません。それ以外にネットあるいは通販等で合わせて5,800万円ぐらいの売り上げでございます。この2つの施設合計で1億7,000万円弱ぐらいの売り上げでございますので、そういった意味では、今後どういうふうに想定するかですが、菜なポートのことしの売り上げは、大体前年対比120%、130%ぐらいの増でございますので、かわと道の駅に直売所が設置され、それにあわせて物産館も建設したいと思っております。

また、これから今回の都市再生整備事業の中では、レストランとか加工施設、こういったものは残念ながら事業として認められませんので、今回、この予算を通していただいた後は、ぜひ

今度は事業主体となるべく農家とか、いろんな団体の皆様を募って、具体的には6次産業化の補助事業、農水省あるいは経産省の補助事業がございます。それでそういったものを配置してまいりたいと。そのための用地等については、その周辺、また別に確保できる部分もございませし、今回の用地取得の中で、若干そういった配置をした中で考えられるのではないかなというふうに思っております。したがって、何名雇用をふやすということは、これは直接的な雇用だけではなくて、そのさまざまな波及効果で雇用が生まれますので、ちょっと具体的なところまでは申し上げられないのかなというふうに思っているところです。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。今、地場産業振興センターの売り上げ、菜なポートの売り上げ等々数字を出されましたけども、菜なポートの場合は運営協議会というのがあります。それで、そこに菜なポートをこれからどうするかということの方向性を含めて、その議論を待つというようなことは、市長、以前の今年の9月くらいだったでしょうか、私も質問申し上げたんですが、その折にはお答えいただきました。つまり行政が主導でどんどんつくっていくのではなくて、今、現菜なポートにおいても、生産者の方々、出品者の方々が協議されて方向性を決定していただくという、そういうふうな思いも述べられましたので、今、市長がおっしゃった数字で菜なポートの現在の売り上げが1億700万円強という、この額を今度の道の駅に当てはめて考えるのもまだちょっと性急な感じもするんですね。

しかしながら、これからの道の駅については、この後にいろんな付帯施設といいたいでしょうか、収益が上がるような施設をこれからつくっていく、農家レストランも含めてつくっていきいたいという市長の思いもおありなわけですが、

これはやっぱり例えば観光客の方々が県内4,000万人の中で、長井市が30万強という非常に少ない観光客であるから、でも、これはまだ伸びしろがあるんだと、その分。そういうふうにはいいふうに解釈をすれば、そうなのですが、実際のところ長井市にお越しになる、長井市の観光客の方々が30万人としますと、カウントされてる数の半分は市民だという、地域の方々、地元の方々がその観光客には含まれているんだということも考えますと、これからの公共財としてのああいった施設は、当然地元の方々に利用していただかないと立っていかなくなるということも当然想定できるわけですので、これからは、その施設に関しては市民の方々の利便性をまず十分に考慮した施設であるべきだと思っております。

観光客の方々のために外向けの施設ということではなくて、地域の方々にうまく活用してもらえる施設にすべきだと思いますし、隣に河川公園なるものが都市公園であれば、それはそもそも地域の方々にとって有用な公園でなければならぬわけですから、あわせて考えましても、これからの公共財への投資というのは地元優先、その上で地域が活性化、活力、にぎわいを見せた中で、外から人が入ってくるというのが理想形だと思っております。

市民の利便性を重視した施設整備をこれからどうするかであります。この都市再生整備計画の予算、先ほど今回、補正に上がってきた中は、これは測量と実施設計までということですが、実施設計まで入らない、調査測量。測量設計等業務委託料ということの表現でありますね。じゃあ、この中身について課長のほうから、もうちょっと具体的にお伺いできればと思います。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げ

げます。

かわと道の駅の調査設計業務委託の中身でございますが、現況測量、用地測量、それから基本設計と実施設計までというふうな、大きく分けて4つの分野となります。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 わかりました。以前の協議会の場で課長からは、実施設計の前に検討委員会という名前でもよかったのでしょうか、別に考える機関をつくるんだということでありました。ここのところは具体的に進んでいるんでありましょか。例えば補正も通らないうちに具体的に進めることもできないんでありましょか、どういった方々にこの検討委員会に参加していただくというようなことはイメージとしてお持ちですか。

○安部 隆委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

具体的な検討委員会のメンバーについては、これから選任されるわけでございますが、今回の施設については、かわまちづくりの計画に大きなかわりもございますので、かわまちづくり推進協議会からもメンバーに入っていて、その他観光振興計画策定委員や観光協会、それからNPOなどとともに、関係機関、関係団体のほうからも、また有識者からも入っていただきたいなど、今のところはそういうふうに思っておるところでございます。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 まことに申しわけないんですが、今出ました、かわまちづくりの委員の方々であるとか、大体顔ぶれはわかるんですよね。ほかの審議会、委員会等にも重複してかかわってるような方々が多分、ごめんなさい、私の頭の中に描くイメージは、あの方とあのかたとあの方かなということがわかってしま

うくらい、それだけ見識の高い方が限定して長井市にはおられるということにもなるかと思いますが。これ先ほど申し上げましたけども、市民の方々のいろんなアイデア、意見なども取り入れていくことがこれからは必要だということだと私は思っておりますが、女性の方、特に若い子育て世代の方々に、こういった施設の活用をこれから担っていただかなければいけないわけですので、そういった方々もぜひそういった検討委員会には入れていただきたいわけです。

例えば本町の街路整備事業においては、あそこの考え方は、お母さんと子供に優しいまちでしたっけ、そんなふうなコンセプトでこれからはまちをつくっていくんだということであります。そうしますと、あそこ、私は以前申し上げましたけども、どんな回遊性を考えるかということをお母さんと子供に優しいまちであれば、今度の道の駅も、そういったコンセプトがどこかにあらわされていけば、当然向こうとこっちは連携できることも多いかと思ひます。そういったふうに、機能もそうですけども、考え方をなるべくばらばらにしないで、基本的なコンセプトはなるべくばらばらにしないで一つにしながら、次の世代にその施設を伝えていくということもぜひ考えていっていただきたいなと思ひんでありますが、その辺、私の考え方に対して市長はどんなふうなお考えか、お尋ねします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

江口委員がおっしゃるように、お母さんと子供に優しい。同時にお年寄りや障がい者の方にも優しい。いわゆる市民の皆様がひとしく、ここはいい施設だと感じていただけるようなものにしなきゃいけない。当然河川公園についても、めぐみ幼稚園あるいは長井小学校の児童、園児があそこに行きたいと、あそこで遊びたいと言ってもらえるような、そういったまず市民

の皆様は満足いただくような、そういった施設づくりに心がけなければならないと思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 それで、これから問題がいろいろ発生してくるわけです。その施設、では、どうやってつくるんだと。今回は道の駅に関しては、駐車場とトイレと観光交流拠点と言われる、これは直売施設ですよ。先ほど申し上げた物産直売に関しては、菜なポートをそっくり持ってくるということは、まだ菜なポートの協議会の方々のお考えも聞いてない段階では、そこはなかなか言えないだろうということを私は申し上げました。ですから、地場産業振興センターが所管している、抱えている物産、お土産物と言っているんでしょうか、物産を中心にした直売施設ということがあるんであります。それ以降の施設がこれから重要になってくるわけですが、そここのところの予算立てというのは、なかなか現段階では見つからない。

これから中心市街地活性化基本計画の中、これが国の認定を受ければ、さまざまな補助事業が生かせるということですが、ということは、中心市街地活性化基本計画を国に認定していただかないと、これからの道の駅の発展形はないということではないのです。そこも、じゃあ市長のほうから。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

やはり今、入り口で事業の中身に入れないものですから、具体的に例えば農家とか、いろんな何か事業を起こしたいという方々を募っている段階ではないんですが、これは中心市街地の活性化基本計画を策定いたしますと、いわゆるそのエリアの中の民間の事業でありましたり、あるいは商店街を含めた、さまざまな事業については、まちづくり会社を通すことによって、さまざまな補助を受けることができます。特に経

済産業省関係の事業は、かなり豊富なメニューがございますので、そういったことで民間の方が自由にそういった補助を受けられるチャンスがあるということです。

かわと道の駅については、これは中心市街地の活性化基本計画の中でどうのこうのと言うよりも、ことし、もし今回、予算を認めていただいても、実際にオープンするまでには4年ぐらいかかるというふうに見込まれますので、その間に、そういったレストランとか、さまざま民間の皆様、ぜひやりたいという事業者の皆様から、さまざまな事業を展開していただきたい。その際は、農林水産省あるいは経済産業省、どちらの窓口でもオーケーなんです。6次産業化の補助事業を活用したいというふうにご考えているところでございます。基本的には、おおむね5割補助、半額補助のさまざまな制度が受けられる可能性が高いというふうに思っております。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

3割自治という非常に財政的にも逼迫している自治体の中では、こういった国の補助事業にどうしても手を挙げたくなくて、それを獲得するために、さまざまな策をとるというのはわかります。大体そういった施設がどのようにこれから活用されるかということまで担保されることなく、建設のほうに踏み切ってしまうと、後から負担感が増してしまうという、そういうことがずっと繰り返されてきたわけだと思っております。そうしますと、しかしながら、こういった公共財の投資的経費というのは使わなければいけないことはわかります。なぜかということ、それを起爆剤にして、うまく民間が投資意欲を増してもらおうような、増すことができるような公共財の投資であれば、私はやはりこういった時代でありますと考えるべきだし、時には積極的にそれを推進していくことも必要だとは

思います。

ただ、そこで、先ほど来ずっと何回も申し上げていますように、民間が本当に使いたくなるような構想が描けるような最初のプレゼンテーションが行政側から、あるいは議会側からと言ってもいいかもしれませんが、出せるかどうかということですね。ですから、今回の道の駅あるいは河川公園、あの周辺部に全体で6億4,800万円が道の駅であって、河川公園が1億6,100万円、この投資をして民間投資をもっともっと促すことができるかということが、これは問われているわけですから、このところは本当に民間の方が、先ほど市長がまちづくり会社という言葉を出されましたけれども、なかなか今までもまちづくり会社というのは、市内では本町地区でも出されたことがあると聞いておりますが、商工会議所でも、その責任を担ってほしいというような求めも本町地区からは出された経過が今まであったようではありますが、なかなか成立してこなかった。

中心市街地活性化基本計画の中にも、このまちづくり会社であるとかタウンマネジャーという言葉も使いながら、地域を牽引していく人材、組織というのをつくってほしいということですね。これは時代の要請でもあると思うんですが、その辺はどうなんでしょうね、このまちづくり会社をつくれるかどうか、ここも大きな試金石だと思うんですが、もう一言、まちづくり会社に対しての思いを少し。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まちづくり会社につきましては、中心市街地活性化基本計画を策定する段階で、これ設立できればしていきたいと。ただし、市役所だけでつくれるものではございません。商工会議所あるいは商店街等々でつくるべきものと。まちづくり会社にも、いろいろな性格の会社がございます、長井市におけるまちづくり会社という

のは、どちらかというと、まちづくりを直接事業会社としてするんじゃないなくて、さまざまなプロデュースを行う、そういう会社だと思っております。ですから、プロデュースといいますと、一番の課題は人材です。どういう人がまちづくり会社として、例えば本町の街路事業の中で、ここの部分については当初の予定と変わって、やっぱり事業を行わないということになってしまったと。じゃあ、その場所にどういう機能の店舗が必要なのか、あるいはそのところはポケットパークでいいのか、そういったところも含めて、やはりマネジメントする、そういう能力が必要とされるわけですね。そういったところについては、やっぱりマネジメントできるような人材をどういうふうに確保するかということがまちづくり会社の一番のポイントであろうと思っております。

かわと道の駅については、ちょっと考え方は違っております、まちづくり会社がどうのこうのではなくて、例えばもう既に直売所について、いわゆる協議会がございますけれども、それは出店いただいている農家の皆様の、あるいは出店者の皆様の団体です。運営は地場産業振興センターで行わせていただいておりますが、これがそのまま引き続き、ぜひ地場産センターでやらせていただきたいと。地場産業振興センターも、その他一般財団としてこれからも存続するには、いつまでも市役所から税金を投入いただかないと成立しない、そういう団体では意味がないわけですね。ですから、そういった意味では、菜なポートのノウハウがございますし、物産館を運営してきたという25年の実績がありますので、そういったところをぜひ、かわと道の駅については考えております。

ただし、レストランとか、そういった部分については、多分まちづくり会社は間に合いませんので、結局私ども市のほうと商工会議所とか、あるいは農業団体、そういったところと連携し

て、やりたい人いませんかと、こういう計画でやりたいんだと、実はこういう制度があって、補助も受けられる、融資もオーケーですと。そういうふうな形でまず進めていきたいなと思っております。その際に、大切なことは、今の長井市では観光と物産というのは全く別なものになってるんですね。観光協会は観光だけ、地場産業振興センター等扱ってるものについては物産だけ、これはぜひ一体化をしていかなきゃいけないだろうなというふうに思っているところです。以上です。

○安部 隆委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。きょうの総括では、私のこれから後に続く各委員の方々も、このかわと道の駅あるいは河川公園についての質問をされるようであります。私、今回かなりたくさん項目を準備してまいりましたが、ちょっと不慣れなもので申しわけなく思っておりますけども、全てにおいて、きちっとした質問もなかなかできなかつたような気がしております。

でも、今のこの1時間弱のことを振り返ってみますと、やはり民間の資本がこれからまちにどんなふうに、どういうことをきっかけにして流れていくか、投資されるかということも、どこかにきちんとイメージを持ちながら公共財としての資本的投資をしていかなきゃいけないということだと思っております。ですから、これからタウンマネージャーという言葉がいいのかわかりませんが、人材をつくっていかなきゃいけないということもおっしゃいました。これはこの2年間の未来塾の中で、どれだけの方々が成長されたかということとはなかなかわかりませんが、それも一つの投資だったんだろうなという気がいたします。

いずれにしても、これからの継続的な投資というのは、そんなに簡単なことじゃないだろうと思っております。いろんな国の制度を利用する

とおっしゃいますけれども、そうそう長井市ばかり国が目を向けてくれるわけではありませんで、そんなことも考えますと、それこそ行政と市民の方々が一体となった協働のまちづくりをこれからその名前のとおりにやっていかないと、なかなかうまく進まないだろうなと思います。

冒頭申し上げましたように、これからの市長が行われる意見交換会などにも、十分私は市長に期待するということがばかりではなくて、市民の方々からさまざまな意見が寄せられることを強く期待しているわけです。しばらくこの議論、きょう1日、あしたにかけて続くと思いますが、私もこの後聞かせていただいて、これは本当に今回の議会の天王山のような話なのかと、答弁、質疑なのかと思っておりますので、まずこれからもよろしく審議のほどお願い申し上げて、質問を終わります。ありがとうございます。

今泉春江委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位2番、議席番号4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 日本共産党の今泉春江でございます。

まず、長井市再生整備事業、観光振興計画についてお伺いいたします。簡潔にお答えいただきたいと思っております。

市は、9月15日の市報と一緒に、あやめR e P oで長井市再生計画を全戸に配布いたしました。まず、確認したいのは、この文書は、今回問題となっている市の再生計画の全体像と見てよろしいのでしょうか、市長。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。